

2018年3月24日

大阪市立大学フランス文学会編

リュテス 第44号 抜刷

中世ヴァルド派詩篇『崇高なる読誦』の成立時期に関する諸主張

有田 豊

## 中世ヴァルド派詩篇『崇高なる読誦』の 成立時期に関する諸主張

有田 豊

Yutaka ARITA

本稿は、中世ヴァルド派詩篇『崇高なる読誦』*La Nobla Leïçon, La Nobla Leyçon, La Nobla Leyczon*に関する17世紀から19世紀の研究傾向と、研究上の問題点を明らかにすることを目的としている。

ヴァルド派 Les Vaudois とは、1173年頃のリヨンで生まれた「リヨンの貧者」に端を発する平信徒による説教集団を指す。リヨンの商人ヴァルド Valdo が改心し、聖書に忠実であることを第一とした清貧に基づく使徒的生活を勧める説教活動を行うようになったのが始まりとされる。しかし、次第にカトリック教会権威の軽視を罪として1215年の第4回ラテラノ公会議で「異端者」として断罪される。以後、約300年にわたって地下活動を行うが、1532年に宗教改革運動に参加し、改革派系プロテスタントの一派となる。そして、現在もイタリアを中心に活動を行っており、全世界に約45,000人の信者を有するプロテスタントの中核的存在として知られている。

本稿で主に取り扱う『崇高なる読誦』は、中世期にヴァルド派が著した詩篇の1つである。昨今の研究では1420年頃に作成されたと言われており、著者は不明。現存する写本はCambridge (B) 写本（以下、C<sub>B</sub>写本）、Cambridge (C) 写本（以下、C<sub>C</sub>写本）、Genève写本（以下、G写本）、Dublin写本（以下、D写本）の計4本で、羊皮紙もしくは紙が使用され、執筆言語はアルプス地域で使われていた古プロヴァンス語である<sup>(☆1)</sup>。写本ごとに若干異なるが、全部で479行から492行ほどが韻文で書かれており、半諧音詩の形式を採用している。

---

☆1 *La Nobla Leïçon* : Mss.Dd.XV.30. (B), en parchemin, Cambridge University Library.; *La Nobla Leyçon* : Mss.Dd.XV.31. (C), en papier, Cambridge University Library.; *La Nobla Leyçon* : Mss.Ge.207., en papier, Bibliothèque Publique et Universitaire de Genève.; *La Nobla Leyczon* : Mss.C.5.21. (261), en papier, Trinity College Library of Dublin. ケンブリッジ大学図書館にはヴァルド派写本が8本所蔵されており、それぞれに略記号として (A) から (H) の文字が当てはめられていて、C<sub>A</sub>, C<sub>B</sub>, C<sub>C</sub>, C<sub>D</sub>, などと表記する。

そして、これを読むとヴァルド派説教師の基礎的な素養が身につくという同派の教理書の性格を備えているという点が当該文書の特徴である<sup>(☆2)</sup>。

『崇高なる読誦』は、数ある中世ヴァルド派文書の中で最も多くの研究蓄積があり、同派の代表的な文書の1つとして知られる。当該文書が研究対象として数多く取り上げられてきた理由は3つある。それは、文中にある「ヴァルド派」Vaudésという名称からヴァルド派関連の写本なのが明らかなこと、同宗派の教理や精神世界を理解するのに便利なこと、文中にある成立時期を示唆する「1100年」および「1400年」という年代表記がヴァルド派の創設時期を特定する根拠として注目されてきたことである。こうした理由から『崇高なる読誦』は、ヴァルド派の思想や創設時期を明らかにするための史料として、他のヴァルド派文書と比べて頻繁に利用されてきた経緯がある。

『崇高なる読誦』について言及した文書は17世紀から存在しており、今日に至るまで4世紀近くにわたって研究対象となってきた。本稿では17世紀から19世紀までの研究史を俯瞰し、この時代の研究傾向と問題点を明らかにすることを試みた。結果、当時の研究では、ヴァルド派の起源が12世紀以前にあるのか、もしくは12世紀以後にあるのかを検討する材料として『崇高なる読誦』に記された「1100年」または「1400年」という成立時期にのみ注目が集まる傾向があり、当該文書に記された他の内容にまで具体的に踏み込んだ研究は殆どなされてこなかったことが明らかとなった。ヴァルド派が創設されたのは1173年頃だが、13世紀以降には「ヴァルド派は使徒の時代から存在する」という独自の起源伝承が生み出され、神話的な起源が信者間で認知されるようになった。起源伝承は中世から近代を通して長らくヴァルド派内外で信じられてきたが、19世紀に入るとそれを疑問視する声がヴァルド派外部で起こり、以後同世紀を通して起源伝承を否定する声が徐々に大きくなっていった。その際に有力な根拠として挙げられたのが、『崇高なる読誦』の成立時期なのである。

以下、『崇高なる読誦』の成立時期をめぐる17世紀以降の諸主張を、時代ごとに分析していく。その前に、まずは当該文書が作成された理由と時代を、本稿の議論の前提として確認しておく。

---

☆2 Cf. PAPINI, Carlo., *La Nobile Lezione ; La Nobla Leïçon : Poemetto medievale valdese*, Claudiana, Torino, 2003, pp.15-16.

## 1. 『崇高なる読誦』の作成背景

本章では、『崇高なる読誦』が作成された理由と時代について詳述する。

### 1-1. 作成理由

ヴァルド派が1215年に「異端者」としてカトリック教会から破門されたことは先に述べた通りである。破門直後より、彼らは2人1組になってヨーロッパの諸都市を遍歴し、信者の増加を目指したが、1230年頃から始まった異端審問によって徐々に活動範囲が制限されていく。そして、15世紀に入ると信者の獲得を目的とした対外的な説教が困難となり、自分たちの信仰を保持するための説教を内部で行うようになっていった。ヴァルド派信者たちは、迫害が激化していく中で説教を通して自らの信仰を述べ伝えるだけでなく、形として残しておく必要が出てきたことから『崇高なる読誦』のような書物を作成したと考えられる。『崇高なる読誦』は、前半部分に聖書の要約が、後半部分にカトリック教会とは異なるヴァルド派独自の宗教観や起源伝承、聖書の解釈などが記されている同派の教理書的性格を持つ書物なので、ヴァルド派の説教師養成のために作成された可能性も高い。また、書物の作成と読み聞かせは中世ヴァルド派説教師たちの重要な仕事の1つだったとされ、彼らの書物は遍歴中に持ち運びしやすく、異端審問官の目から隠しやすいうように、極めて小さなサイズで作られている（最小のもので8.8cm×6.5cm程度）<sup>(☆3)</sup>。

### 1-2. 成立時期

本稿の論点でもある『崇高なる読誦』の成立時期は、いつ頃なのだろうか。MONTET (1888) や PAPINI (2003) らの分析によると、現存する4つの写本は「15世紀前半ごろ」から「16世紀前半ごろ」にかけて作成されたようである<sup>(☆4)</sup>。そ

☆3 Cf. MONTET Edouard., *La Noble Leçon.*, Librairie G. Fischbacher, Paris, 1888, pp.20-21.

☆4 MONTET, *ibid.*, p.4. « [...] ces mss. datent de la première moitié ou du milieu du XVme siècle, mais à la période qui a précédé l'an 1450. » ; PAPINI, *op.cit.*, p.30. « Il manoscritto G (Il Ge 207 della Bibl. pubblica di Ginevra) sarebbe stato trascritto da un copista di Anglogna perché vi si ritroverebbero alcune tracce di quel dialetto. [...] Essa corrisponde agli altri testi valdesi dell'epoca e in gran parte anche ai dialetti parlati tra la fine del XV secolo e l'inizio del XVI nelle Valli delle Alpi Cozie. » e p.36. « Queste considerazioni,

の根拠は、当該文書の執筆言語が、ヴァルド派の活動拠点であるコツイエ・アルプス地域で15世紀から16世紀にかけて話されていた言語と酷似しているからというものである。しかし、17世紀から19世紀にかけて、『崇高なる読誦』は「1100年」に作成されたと考えられてきた。その根拠は、現存するG写本ならびにD写本の6行目に、当該文書の作成時期を示唆する「1100年」という年代が記されているからというものである。

6. Ben ha mil e cent ancz compli entierament (G)

6. Ben ha mil e cent an compli entierament (D)

まるまる1100年が経ってしまった。

しかし、C<sub>B</sub>写本およびC<sub>C</sub>写本には、「1100年」ではなく、それよりも300年遅い「1400年」という年代が記されている。

6. Ben ha mil e 4 cent an compli entierament (C<sub>B</sub>)

6. Ben ha mil e cccc cent anz compli entierament (C<sub>C</sub>)

まるまる1400年が経ってしまった

MONTET (1888)によれば、C<sub>B</sub>写本とC<sub>C</sub>写本はG写本とD写本に先駆けて作成されたものであり、4本の中ではC<sub>B</sub>写本が最も古い版であるという<sup>(☆5)</sup>。つまり、先に作られた2本には「1400年」、後に作られた2本には「1100年」と書かれていることになるのである。

『崇高なる読誦』の成立時期は「1100年」なのか、もしくは「1400年」なのか、続いては、19世紀に繰り広げられた『崇高なる読誦』の成立時期に関する論争を中心に、当該文書の研究史を辿っていくこととする。

---

oltre alla "modernità" della lingua di cui ho già parlato, ci consentono di concludere che il nostro poemetto è stato sicuramente messo per iscritto intorno agli anni venti del '400, anche se i manoscritti che ce lo hanno tramandato possono essere posteriori di circa un secolo.»

☆5 MONTET, *ibid.*, pp.1-2.

## 2. 17世紀——1100年：迫害への対抗策

本章では、中世以降に『崇高なる読誦』が初めて言及された17世紀における文献の記述を分析する。

1655年に「ピエモンテのイースター」Pâques piémontaisesというサヴォイア公国軍による大量虐殺の被害を受けたヴァルド派は、写本が敵の手に渡ってしまうことを危惧し、以後それらをプロテスタント圏の国々で分散保管するようになる。当時のヴァルド派教会議長Jean LÉGERは、イングランドの外交官Samuel MORLANDに写本を託してケンブリッジ大学図書館での保管を依頼したり、また自らジュネーヴの図書館に赴いて写本を持ち込んだりした。

MORLANDは、著書『ピエモンテ谷の福音教会の歴史』*The History of the Evangelical Churches of the Valleys of Piemont.*の中で、『崇高なる読誦』を次のように紹介している。

「谷」の古来の住民たちの言語で、1100年に記された『崇高なる読誦』。最も確かな写本から引用されており、真の原本は有名なケンブリッジ大学公立図書館で見ることができる<sup>☆6</sup>。

MORLANDは『崇高なる読誦』の成立時期を「1100年」としている。同様に、LÉGERも著書『ピエモンテの谷の福音教会またはヴァルド派の通史』*Histoire generale des Eglises Evangeliques des Vallees de Piémont.*の中で、当該文書の成立時期を「1100年」としている。

2冊あり、1冊はケンブリッジに、もう1冊はジュネーヴの図書館に保管されている、古いゴシック体で手書きされた羊皮紙の書物に全容が含ま

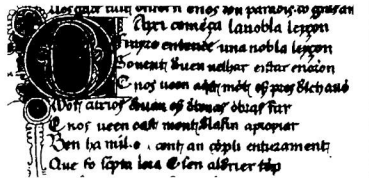
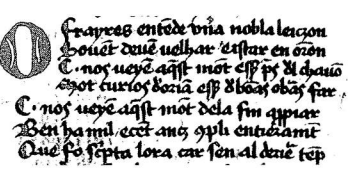
---

☆6 MORLAND, Samuel., *The History of the Evangelical Churches of the Valleys of Piemont.*, Henry Hills, London, 1658, p.99. « The noble Lesson written in the Language of the ancient Inhabitants of the Valleys, in the Year 1100. Extracted out of a most authentick Manuscript, the true Original whereof is to be seen in the publick Library of the famous University of Cambridg [sic]. » 引用文中の下線は筆者による（以下、同様）。

れる、1100年に遡る『崇高なる読誦』と題された、ある概説書からの引用(☆7)。

両者の引用は、C<sub>B</sub>写本、C<sub>C</sub>写本、G写本のどれかに含まれていると考えられる。「1100年」という年代から推定すればG写本が妥当だが、彼らに参照されたのはC<sub>B</sub>写本だと考えられる。理由は2つ、「写本の素材」と「年代表記の方法」である。

まず「写本の素材」について、LÉGERは『崇高なる読誦』を「羊皮紙の書物」と述べており、上に挙げた3つの写本のうち、羊皮紙で作られているのはC<sub>B</sub>写本のみである。次に「年代表記の方法」に関して、該当する年代の部分を比較してみると、mil e 4 cent an (C<sub>B</sub>)、mil e cccc cent anz (C<sub>C</sub>)、mil e cent anz (G)となっており、このうちmil e centという年号が一致するのはG写本のみである。しかし、BRADSHAW (1862)によれば、C<sub>B</sub>写本のmil eとcentの間には何かで削られたような痕跡と不自然な空白があり、一見するとmil e centなのだが、拡大鏡を通して見ると「4」という数字が浮かび上がって見えるという(☆8)。

C <sub>B</sub> 写本冒頭 1-7 行目	G 写本冒頭 1-7 行目
 <p>O frayre entendé una nobla leyçon      Souvent deven velhar e istar en oresson.      C. nos veen aquest mont esser pres del      chavon.      Mot curios deorian esser de bonas obras far.      C. nos veen aquest mont de la fin apropiar.      Ben ha mil e . c. an compli enterament.      Que fo scripta lora, C. son al derier temp.</p>	 <p>O frayres entendé vna nobla leyçon      Souvent deve velhar e star en oresson.      C. nos veen aquest mont esser pres del      chavon.      Mot curios deorian esser de bonas obras far.      C. nos veen aquest mont de la fin apropiar.      Ben ha mil e cent an compli enterament.      Que fo scripta lora, que sen al derier temp.</p>

MORLAND (1658)	LÉGER (1669)
<p>O frayre entendé una nobla Leyçon.          Sovent deven velhar e istar en oresson.          C. nos veen aquest mont esser pres del          chavon.          Mot curios deorian esser de bonas obras far.          C. nos veen aquest mont de la fin apropiar.          Ben ha mil e cent an compli enterament.          Que fo scripta lora, C. son al derier temp.</p>	<p>O Frayre, entendè une noble leyçon          Sovènt devèn velhar e star en oresson,          Car nos veen aquest mont esser pres del          chavon.          Mot curios deorian esser de bonas obras far          Car nos veen aquest mont de la fin apropiar.          Ben ha mil &amp; cent an compli enterement,          Que fo scripta l'òra, que sen al derier temp.</p>

☆7 LÉGER, Jean., *Histoire generale des Eglises Evangeliques des Vallees de Piémont.*, Chez Jean le Carpentier, Layde, 1669, p.26. « Extrait d'un Traité intitulé *la Noble Leiçon* datté de l'an 1100. qui se trouve tout entier en un Livre de parchemin écrit à la main, en vielle Lettre Gothique, dont se sont trouvés deux Exemplaires, l'un desquels se conserve à Cambrige, & l'autre en la Bibliotheque de Geneve. »

では、そもそもなぜ「4」が削られているのかという点だが、考えられる理由としては、C<sub>B</sub>写本に記された「1400年」という年代を、何者かが後年に作られたG写本やD写本にある「1100年」という年代に一致させようとした可能性が挙げられる。13世紀以降、迫害を加えてくるカトリック教会に対抗して、ヴァルド派は信者間の結束力を固め、集団意識を保持するために、自らの起源を12世紀の創設者ヴァルドよりも遥かに昔、使徒の時代にまで遡らせる独自の「起源伝承」を語り継いできた<sup>(☆8)</sup>。そして『崇高なる読誦』には具体的な年代と「ヴァルド派」Vaudèsという名称が明確に記されていることから、ヴァルド派の存在を年号と結び付けて示すには便利な文書だった。しかし、「1400年」という年代だと、12世紀のヴァルド以前の時代にヴァルド派の起源を遡らせることができない。そこで信者たちは、ヴァルドが出現する以前の「1100年」という年代を記したG写本やD写本のような版を新たに作成し、先に作られていたC<sub>B</sub>写本のmil e 4 cent anという表記から数字の「4」の部分を削りとって、意図的に『崇高なる読誦』の成立時期を「1100年」に統一しようとしたものと考えられるのである。

MORLANDとLÉGERを皮切りに、近代を通して『崇高なる読誦』は「1100年」に作成されたと言われてきた。ところが、19世紀になると「1400年」に作成されたという意見が新たに出現し、成立時期をめぐって「1100年」と「1400年」の2つの説が対立するようになっていく。続いては、19世紀の文献における『崇高なる読誦』に関する記述を分析していく。

- 
- ☆8 BRADSHAW, James-Henry, « On the Recovery of the Long Lost Waldensian Manuscripts. » *Collected Papers of Henry Bradshaw*, Cambridge University Press, Cambridge, 1862, p.8. « The copy of the *Nobla leyçon* in this volume is the one which has created all the discussion, by the expression which I have quoted before, 'Ben ha mil e cent an,' &c. It is, therefore, highly satisfactory to notice that the line runs in this copy; Ben ha mil e cent an compli entierement, with an crasure before cent, where, by the aid of a glass, the Arabic numeral 4 is visible, of the same shape as those frequently used in this volume. ».
- ☆9 Cf. 拙稿「偽りの神話——起源伝承にみるヴァルド派の集団意識について——」【Lutèce】 Vol.39, 2011, pp.3-22. : 拙稿「近代ヴァルド派史書にみる起源伝承の変遷とその変化理由」【Lutèce】 Vol.41, 2013, pp.21-36.



### 3. 19世紀前半——1100年? : 不要になる起源伝承

本章では、『崇高なる読誦』の成立時期に関する、19世紀前半の文献の記述を分析する。

#### 3-1. 起源伝承の肯定派と否定派

中世以来、ヴァルド派内部では独自の起源伝承が信じられ、対外的に主張されてきた。しかし、18世紀に入ってヴァルド派に対する迫害が緩和されると、集団意識保持のために利用されてきた起源伝承は、徐々に不要になっていく。そして、19世紀前半になると使徒の時代に遡る起源は語られなくなり、代わりにヴァルド派の起源は12世紀のヴァルド以前の時代にあるという、曖昧な時期が語られるようになる。また、19世紀の前半と後半ではヴァルド以前の時代に遡る起源の信憑性が大きく変化しており、その争点となったのが『崇高なる読誦』に記された年代なのである。

19世紀前半、ヴァルド派の起源伝承はどのように認識されていたのだろうか。当時、起源伝承に関しては2つの異なる立場があった。起源伝承の内容を事実として肯定する立場と、作り話として否定する立場である。本稿では、便宜的に前者を起源伝承の「肯定派」、後者を「否定派」と呼び分けることにする。両派の主張を確認しておく、肯定派の主張は、ヴァルド派の起源は「12世紀のヴァルド以前」にあり、その根拠は『崇高なる読誦』に「1100年」という年代と *Vaudès* という名称の具体的表記があることである。この立場をとるのは、ヴァルド派と英国国教会の信者たちである。続いて、否定派の主張は、ヴァルド派の起源は「12世紀末のヴァルド」にあり、その根拠は様々な中世カトリック教会文書にてヴァルド派が当時現れた「新たなる異端」として言及されていることである。この立場をとるのは、カトリック教会の聖職者 *André CHARVAZ* のみである。

次は、19世紀前半の具体的な文献を挙げながら、両派の主張を分析していく。

#### 3-2. 起源伝承肯定派の主張 (19世紀前半)

肯定派の主張は、GILLY (1824, 1831), PEYRAN (1825), SIMS (1827), BRACE-

BRIDGE (1827), BERT (1830), MUSTON (1834), MONASTIER (1847)らの著書で確認できる。例として、本稿ではヴァルド派牧師 Antoine MONASTIER の『ヴァルド派教会の歴史』*Histoire de l'Église vaudoise*。を見ておきたい。彼は『崇高なる読誦』には Vaudès の名があり、ヴァルド派の歴史は1100年に遡ると説いている。

実際、『崇高なる読誦』という、古代ヴァルド派教会による大変古い独自の記念碑的作品は、ヴァルド派の名に別の語源を与えている〔…〕1100年に遡る、この貴重なヴァルド派の信仰の証言は、これから訳す368行目から372行目において、次のように表現されている。「もし神を愛し、イエス・キリストを畏れ敬おうとする人がいるなら、その人は罰を下したり、宣誓したり、嘘をついたり、不義を犯したり、殺したり、他者の財産を奪ったり、自身の敵に復讐したりといったことは望まないのである。——彼らはその人はヴァルド派で、罰せられるにふさわしいと言う」(☆10)

そして、「1100年」という年代を根拠に、ヴァルド派の起源は12世紀以前の時代にあり、それは事実として証明されていると述べている。

『崇高な読誦』によってヴァルド派の名へ当てはめられた起源は、事実によって証明されているように見える。小さく忠実な教会が、どの時代にも不当かつ醜悪でもある名称を受けとったのかを知るのには興味深く、おそらく大事なことだろうが、この点に関しては情報が不足している。我々が知っていることの全ては、著者自身が示すように、1100年に記された『崇高な読誦』で既に言及されている12世紀以前ということである (☆11)。

---

☆10 MONASTIER, Antoine., *Histoire de l'Église vaudoise depuis son origine et des vaudois du Piémont jusqu'à nos jours*, Chez Georges Bridel, Lausanne, 1847, p.84. « En effet, la Noble Leçon, ce monument vénérable et original de l'antique Eglise vaudoise, assigne au nom de Vaudois une autre étymologie [...] Ce précieux témoin de la foi des Vaudois, qui date de l'an 1100, s'exprime comme suit, dans les vers 368 à 372, que nous allons traduire : « Que s'il y a quelqu'un qui aime et craigne Jésus-Christ, qui ne veuille maudire, ni jurer, ni mentir, ni paillarder, ni tuer, ni prendre le bien d'autrui, ni se venger de ses ennemis, — ils disent qu'il est vaudès et digne de punition (châtiment). » »

☆11 MONASTIER, *ibid.*, p.86. « L'origine attribuée au nom de Vaudois par la Noble Leçon nous paraît donc justifiée par les faits. Il serait intéressant et précieux, sans doute, de savoir à quelle époque la petite Eglise fidèle a reçu un nom aussi injuste et aussi odieux ;

上記のように、肯定派の主張は『崇高なる読誦』に記された「1100年」という年代を根拠に、ヴァルド派の起源は「12世紀のヴァルド以前」にあるという点で一致している。続いては、起源伝承否定派の主張を確認する。

### 3-3. 起源伝承否定派の主張 (19世紀前半)

否定派の主張は、先に挙げた André CHARVAZ の『ヴァルド派の真の起源に関する歴史的研究』*Recherches historiques sur la véritable origine des Vaudois*. で確認できる。肯定派の主張とは異なり、CHARVAZ はヴァルド派の起源が12世紀末頃にあると考えている。その根拠は、当時の教皇ルキウス3世が在位していた時期に現れたヴァルド派は、同時代人たちから「新しい異端」と形容されていたからというものである。

精度に申し分のない同時代の証人の話は、ルキウス教皇の在位期間以前には知られていない新しい異端であるヴァルド派が、彼らを断罪したルキウスという名の教皇のもとにおいて初めて出現したことを明らかに立証している。この教皇は、ルキウス3世でしかありえない。彼は1181年から1185年まで教会を治め、その治下で、史上初めてヴァルド派が問題となったのだが、1184年にひらかれたヴェローナの公会議において、実際に彼らの有罪を宣告した。[...] この異端者たちが12世紀末頃もしくは後半期になって初めて現れたということはやはり正しいのであろう<sup>(☆12)</sup>。

このように、両派の主張は食い違っているわけだが、19世紀前半の時点で

---

mais nous manquons de données sur ce point. Tout ce que nous savons, c'est qu'il est antérieur au XII<sup>e</sup> siècle, étant déjà mentionné dans la Noble Leçon, écrite l'an 1100, comme l'indique l'auteur lui-même. »

☆12 CHARVAZ, André., *Recherches historiques sur la véritable origine des Vaudois et sur le caractère de leurs doctrines primitives.*, Perisse frères, Paris, 1836, pp.36-37. « Ce récit d'un témoin contemporain, dont la précision ne laisse rien à désirer, établit manifestement que les Vaudois nouveaux hérétiques, inconnus avant le pontificat de Lucius, parurent pour la première fois sous un pape de ce nom qui les condamna. Ce pape ne peut être que Lucius III, qui a gouverné l'Eglise depuis 1181 jusqu'à 1185, sous lequel il est, pour la première fois, question des Vaudois dans l'histoire, et qui prononça effectivement leur condamnation au concile de Vérone, tenu en 1184. [...] il sera toujours vrai de dire que ces hérétiques n'ont paru que vers la fin ou dans la seconde moitié du douzième siècle. »

は、否定派に比べて肯定派の方が数の上では多いという状況があった。しかし、19世紀後半になると逆転し、否定派が肯定派の数を上回っていく状況が生まれるのである。

#### 4. 19世紀後半——1400年：起源伝承の消失

本章では、『崇高なる読誦』の成立時期に関する、19世紀後半の文献の記述を分析する。

##### 4-1. 否定派が掲げた新たな根拠

1848年2月17日、サヴォイア公カルロ・アルベルト Carlo ALBERTOの勅令によってサヴォイア公国内での信仰の自由が公的に認められると、ヴァルド派は自身の生存を賭けてカトリック教会に対抗する必要がなくなり、起源伝承の不要性はさらに高まっていった。そして、1881年にヴァルド派史を研究する組織「ヴァルド派歴史学会」Société d'Histoire Vaudoiseが創設されると、以降はヴァルド派内部からも起源伝承を否定する声があがりはじめる。その際に根拠として使われたのが、『崇高なる読誦』のC<sub>B</sub>写本およびC<sub>C</sub>写本に記された「1400年」という年号である。

19世紀後半の時代における起源伝承肯定派および否定派それぞれの主張は、次の通りである。まず、肯定派の主張は、19世紀前半と全く変わっておらず、ヴァルド派の起源は「12世紀のヴァルド以前」にあるというものである。根拠も同じく、『崇高なる読誦』に記された「1100年」という年代とVaudèsという名称の表記である。続いて、否定派の主張は、ヴァルド派の起源は「12世紀末のヴァルド」にあるというものである。ただ、19世紀前半とは異なり、中世カトリック教会文書における「新たな異端」という記述のみならず、『崇高なる読誦』のC<sub>B</sub>写本とC<sub>C</sub>写本における「1400年」という年代が新たな根拠として加えられている。

次は、19世紀後半の具体的な文献を挙げながら、両派の主張を分析していく。

##### 4-2. 起源伝承肯定派の主張（19世紀後半）

起源伝承肯定派の主張は、MUSTON (1851, 1862, 1881), GEYMONAT (1861),

MEYTRE (1871)らの著作で確認できる。例として、本稿ではヴァルド派牧師 Alexis MUSTONの『ヴァルド派の民俗史』*Histoire populaire des Vaudois*を見ておきたい。彼は、19世紀前半の時点から『崇高なる読誦』に記された「1100年」を根拠に、ヴァルド派の起源は12世紀のヴァルド以前にあると一貫して主張し続けている。

我々が先ほど名を挙げた『崇高なる読誦』は、アルプスのヴァルド派の言葉で書かれた詩篇である。同宗者について語る著者は、彼らをヴァルド派と呼称し、写字生たちが改変できなかった著作の作成年代は、ある一行に記されている。その年代は1100年であり、詩篇の著者は少なくともヴァルドより半世紀前に生きていたことが推察される。聞くところによれば、この年代は曖昧なものでしかなく、ヴァルドの信奉者たちの離散の時代、つまり1182年頃にまで進められるだろうとのこと<sup>(☆13)</sup>。

起源伝承を否定する意見が多数派だった当時、MUSTON自身も「1100年」という年代が実は曖昧なもので、ヴァルド派の起源は1182年頃にあるという否定派の主張を認識していたことがわかる。しかし、それでも彼は『崇高なる読誦』の著者がヴァルドより半世紀前に生きていたとして、その起源をヴァルド以前の時代に位置づけていることが伺える。

#### 4-3. 起源伝承否定派の主張 (19世紀後半)

否定派の主張は、CAVALIER (1857), MÉALY (1868), MELIA (1870), PERRONE (1871), VALLAT (1878), TRON (1879)らの著作にて確認できる。例として、本稿ではイタリアの神学者 Pius MELIAの『ヴァルド派の起源、迫害、教理』*The origin, persecutions and doctrines of the Waldenses*を見ておきたい。否定派の主張が、

---

☆13 MUSTON, Alexis., *Histoire populaire des Vaudois*, L'Agence de la Société des écoles du dimanche, Paris, 1862, pp.8-9. « La Noble-Leçon, que nous venons de nommer, est un poème écrit dans la langue des Alpes vaudoises ; l'auteur parlant de ses coreligionnaires les appelle Vaudois et l'ouvrage porte sa date dans un vers, que n'ont pu altérer les copistes. Cette date est celle de l'an 1100 : ce qui suppose que l'auteur du poème a vécu au moins un demi-siècle avant Valdo. Cette date, a-t-on dit, n'est qu'approximative et pourrait être avancée jusqu'à l'époque de la dispersion des disciples de Valdo, c'est-à-dire vers l'an 1182. »

BRADSHAW (1862) が発見したC<sub>B</sub>写本の「1400年」という年代によって、さらに裏付けられていることがわかる。

MorlandやLegerによって出版され、「まるまる1100年が経ってしまった」という『崇高なる読誦』の6行目であるが、実のところ、写本Bにはeとcentの間に消した跡と空白があり、Bradshaw氏ならびに他の人々は拡大鏡を使って、当該箇所には大部分が削除された数字の4があるのを目視した。ゆえに、もしこの数字が本来の場所に挿入されれば、読解は次のようになる。「まるまる1400年が経ってしまった」。また、そうだとすれば、ヴァルド派の驚異的な古代性の最後の拠り所は崩れ去ってしまうのである(☆14)。

結果、これらの70年は写本の実際の日付、すなわち詩に書かれた想像上の1100年に付加され、1170年を示すのであろう(☆15)。これは詩がPeter of Vaudiaの時代よりも前に書かれたものではなかったことを意味する。[…] 今では1100年という数字が写本の正しい理解ではないことが、十分証明されている。つまり、それが15世紀の詩であることは間違いないのだ。[…] 私の現在の議論の確認に根拠として使用する証拠に続いて、それ以上の言葉を付け加えるのは時間の無駄だろう。Peter Waldensisは12世紀の後半に現れ、彼の名前で呼ばれた一派の真の創設者であるという事実を、

---

☆14 MELIA, Pius., *The Origin, persecutions and doctrines of the Waldenses.*, James Toovey, London, 1870, p.55. « The sixth verse of “La Nobla Leyçon,” published by Morland and Leger, as saying : “Ben ha mil e cent anz compli entierament” – “There are a thousand and a hundred years fully completed” – in fact, has an erasure and an empty space, in the manuscript Volume B, between e and cent, and with a magnifying glass Mr. Bradshaw and others saw there the number 4 in great part cancelled. If, therefore, this number be inserted in the proper place, the reading will run thus : “Ben ha mil e 4 cent anz compli entierament” – “There are a thousand and four hundred years fully completed.” And in this case the stronghold of the miraculous Waldensian antiquity is dismantled. »

☆15 「70年」という年代について補足する。MELIAによると『崇高なる読誦』の冒頭7行目に記されている「最後の時に臨む頃合いが記されて以来のこと」Que fo scripta l'ora, que sen al derier temp. という一文は、『ヨハネの手紙一』(第2章18節)にある「子供たちよ、終わりの時が来ています」という記述に基づいているという。ヨハネは、この手紙を主の生誕から約70年後に記しており、その時点から1100年が経つと「1170年」になってヴァルドがいた時代と一致するので、『崇高なる読誦』がヴァルド以前に書かれたわけではないとMELIAは考えている。

繰り返し強調しよう(☆16).

『崇高なる読誦』のC<sub>B</sub>写本における「1400年」という年代が発見され、ヴァルド派の起源は12世紀末のヴァルドにあるという主張が強められている。同じくC<sub>C</sub>写本についても、「1400年」という年代が確認されており、ジュネーヴ大学のAlexandre VALLATの著書『ヴァルド派の谷の福音協会の起源について』*De l'origine de l'Église évangélique des Vallées Vaudoises*.でそれが確認できる。

この1100年という年代は、本当なのだろうか？ [...] こうした疑問は、C写本の発見によって突然確認された。[...] 問題の行には、写本を発見した慎ましい学者で、司書でもあるBrasdashaw氏[ママ]の注意を強く引いたmilとcentの間の空白がある。彼は、語の記されていないこの空白から削り取られたアラビア数字の4を浮き上がらせたのだ。また、彼によって発見され、詩の最初の13行しか含んでいない他の写本においても同じ箇所にローマ字の4が読み取れたのは、『崇高なる読誦』の作成を1400年頃に立ち返らせることなのである(☆17)。

VALLATは、C<sub>B</sub>写本におけるアラビア数字の「4」に加え、C<sub>C</sub>写本における

---

☆16 MELIA, *ibid.*, p.56. « In consequence, these seventy years are to be added to the supposed eleven hundred years written in the composition, which will give the real date of the manuscript, namely, the year eleven hundred and seventy : which shows that the composition was not written before the time of Peter de Vaudia. [...] it is now well proved that the number 1100 is not the true reading of the manuscript : there is no doubt now that it is a composition of the fifteenth century. [...] After the alleged evidences in confirmation of my present argument, it would be a waste of time to add any further words. Let us then repeat with emphasis the fact that Peter Waldensis is the true author of the sect which arose and was called by his name, in the latter part of the twelfth century. »

☆17 VALLAT, Alexandre., *De l'origine de l'Église évangélique des Vallées Vaudoises.*, Imprimerie Ramboz et Schuchardt, Genève, 1878, p.15. « Cette date de 1100 est-elle bien authentique ? [...] Ces doutes ont été subitement confirmés par la découverte du manuscrit de Cambridge. [...] Au vers en question, il y a entre *mil* et *cent* un espace blanc qui a vivement attiré l'attention du bibliothécaire, M. Brasdashaw [sic], le savant modeste qui a retrouvé le manuscrit. De cet espace blanc inusité il a pu faire ressortir un quatre en chiffre arabe qui avait été gratté. Dans un autre manuscrit qui ne renferme que les treize premiers vers du poème, également retrouvé par lui, il a lu à la même place un quatre en lettres romaines, ce qui ramène la composition de la Nobla Leyczon vers l'an 1400. »

ローマ数字の400「cccc」についても言及している。19世紀という時代はドイツの歴史家レオポルト・フォン・ランケ Leopold von RANKEによって実証主義的歴史学が提唱された時代であるため、ヴァルド派の起源についても神話的な伝承ではなく、史実の方に目を向けていく傾向があった可能性が高い。そのため19世紀後半にはヴァルド派の真の起源を解明しようとする研究が相次いで発表され、1881年のヴァルド派歴史学会の創設においても12世紀のヴァルドがヴァルド派史の出発点にされたと考えられる。

R (Edoardo ROSTAN) 博士は、我々の谷の宗教史を3つに分割する。1. キリスト教の始まりからヴァルドの信奉者たちの到着まで、2. ヴァルド (1190年) からヴァルド派の解放 (1848年2月17日) まで、3. 現在。 […] 2. 1190年から1848年に至る時期は、結局のところ本来の意味でのヴァルド派全史を包含している (☆18)。

## 結論

本稿では『崇高なる読誦』の17世紀から19世紀までの研究史を俯瞰し、この時代の研究傾向と問題点を明らかにすることを試みた。結果、当時の研究では、ヴァルド派の起源を特定する根拠として『崇高なる読誦』の成立時期を示す「1100年」および「1400年」にのみ注目が集まる傾向があったことが明らかとなった。そのため、当該文書に記された他の内容にまで具体的に踏み込んだ研究が殆どなされてこなかったことが、問題点として挙げられる。20世紀以降になると、『崇高なる読誦』の成立時期に関する論争は過去のものとなり、当該文書は中世ヴァルド派の教理や精神世界を知るための史資料として扱われるようになっていく。今後は、20世紀から21世紀にかけての研究傾向を分析

---

☆18 Société d'Histoire Vaudoise, « Statut de la Société d'Histoire Vaudoise », *Bulletin de la Société d'Histoire Vaudoise*, n.1, Claudiana, Torre Pellice, 1884. « Le Doct. R. partage en trois périodes l'histoire religieuse de nos Vallées : 1° Depuis l'introduction du Christianisme jusqu'à l'arrivée des disciples de Valdo ; 2° Depuis Valdo (1190) jusqu'à l'émancipation des Vaudois (17 février 1848) ; 3° Période contemporaine. [...] 2° La période qui va de 1190 à 1848, embrasse, au fond, toute l'histoire Vaudoise proprement dite. »



し、『崇高なる読誦』が中世ヴァルド派研究における主要な史料になっていく過程を明らかにしていきたい。

(立命館大学嘱託講師)

[参考文献]

- BERT, Pierre., *Le Livre de famille ou instruction familières sur l'histoire des Églises vaudoises et sur la religion.*, Chez J.Barbezat, Genève, 1830.
- BRACEBRIDGE, Charles-Holte Bracebridge., *Authentic details of the Valdenses in Piemont and other countries.*, John Hatchard and son, London, 1827.
- BRADSHAW, James-Henry., « On the Recovery of the Long Lost Waldensian Manuscripts. », *Collected Papers of Henry Bradshaw*, Cambridge University Press, Cambridge, 1862.
- CAVALIER, Emile., *Essai sur l'origine des Vaudois.*, Typographie de Bonnal et Gibrac, Toulouse, 1857.
- CHARVAZ, André., *Recherches historiques sur la véritable origine des Vaudois et sur le caractère de leurs doctrines primitives.*, Perissc frères, Paris, 1836.
- CHARVAZ, André., *Origini dei Valdesi e carattere delle primitive loro dottrine.*, Presso G. Bocca Libraio di S. S. R. M., Torino, 1838.
- GEYMONAT, Paolo., *Gli Evangelici Valdesi : sunto storico*, Tipografia Torelli, Firenze, 1861.
- GILLY, William Stephen., *Narrative of an Excursion to the Mountains of Piemont, and Researches among the Vaudois, or Waldenses.*, C. and J.Rivington, London, 1824.
- GILLY, William Stephen., *Waldensian researches during a second visit to the Vaudois of Piemont.*, C. and J.Rivington, London, 1831.
- LÉGER, Jean., *Histoire generale des Eglises Evangeliques des Vallees de Piémont; ou Vaudoises.*, Chez Jean le Carpentier, Layde, 1669.
- MAYTRE, Samuel., *Étude sur l'origine des Vaudois du Piémont.*, Imprimerie Bonnant, Genève, 1871.
- MÉALY, Ladrey., *Étude sur l'origine des Vaudois.*, Imprimerie de A. Chauvin, Toulouse, 1868.
- MELIA, Pius., *The Origin, persecutions and doctrines of the Waldenses.*, James Toovey, London, 1870.
- MONASTIER, Antoine., *Histoire de l'Église vaudoise depuis son origine et des vaudois du Piémont jusqu'à nos jours.*, Chez Georges Bridel, Lausanne, 1847.
- MONTET, Edouard., *La Noble Leçon.*, Librairie G. Fischbacher, Paris, 1888.
- MORLAND, Samuel., *The History of the Evangelical Churches of the Valleys of Piemont.*, Henry Hills, London, 1658.
- MUSTON, Alexis., *Histoire des Vaudois des vallées du Piémont, et de leurs colonies depuis leur origine jusqu'à nos jours.*, Chez G.F. Levrault, Paris, 1834.
- MUSTON, Alexis., *L'Israël des Alpes. Première histoire complète des Vaudois du Piémont et de leurs colonies.*, Librairie de Marc Ducloux, Paris, 1851.
- MUSTON, Alexis., *Histoire populaire des Vaudois.*, L'Agence de la Société des écoles du dimanche, Paris, 1861.
- MUSTON, Alexis., *Aperçu de l'antiquité des Vaudois des Alpes d'après leurs poèmes en langue romane.*, Chiantore & Mascarelli, Pignerol, 1881.

- PAPINI, Carlo., *La Nobile Lezione ; La Nobla Leïçon : Poemetto medievale valdese*, Claudiana, Torino, 2003.
- PERRONE, Giovanni., *I Valdesi primitivi, mediani e contemporanei.*, Tipografia dell'oratorio di Francesco di Sales, 1871.
- PEYRAN, Timoléon., *Considérations sur les Vaudois, ou habitans des vallées du Piémont.*, Lador, Genève, 1825.
- SIMS, Thomas., *An Apology for the Waldenses : Exhibiting a Historical View of Their Origin, Orthodoxy, Loyalty, and Constancy.*, C. & J. Rivington, London, 1827.
- TRON, Bartolomeo., *Pierre Valdo et les Pauvres de Lyon.*, Imprimerie Chiantore et Mascarelli, Pignerol, 1879.
- VALLAT, Alexandre., *De l'origine de l'Église évangélique des Vallées Vaudoises.*, Imprimerie Ramboz et Schuchardt, Genève, 1878.

有田豊「偽りの神話——起源伝承にみるヴァルド派の集団意識について——」【Lutèce】  
Vol.39, 2011, pp.3-22.

有田豊「近代ヴァルド派史書にみる起源伝承の変遷とその変化理由」【Lutèce】Vol.41,  
2013, pp.21-36.

LUTÈCE